

宜 基 渉 第 28 号
平成 27 年 11 月 2 日

外務省沖縄担当大使
水上 正史 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

CH-53E 型ヘリコプターの部品遺失について（抗議・要請）

普天間飛行場は戦後 70 年もの長期間にわたって、本市のど真ん中に存在し続け、航空機事故の危険性や騒音をはじめとする基地負担など、市民生活に大きな影響を与えております。2004 年 8 月には、普天間飛行場に隣接する沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落し、その後も、米軍機からの部品落下が相次ぐなど、市民の基地負担はもはや限界に達しており、同飛行場の危険性の除去及び基地負担軽減は、早急に実現しなければならない喫緊の課題であります。

その様な中、10 月 30 日に沖縄防衛局より、普天間飛行場所属の CH-53E 型ヘリコプターが訓練飛行中に部品を遺失したとの報告を受けました。

市街地に囲まれた普天間飛行場では、米軍機によるトラブルが直接人命にかかわる事故に繋がりがねず、本市はこれまで事故のたびに抗議し、原因究明と再発防止の徹底を求めてまいりましたが、一向に詳細な事故原因や具体的な再発防止策は示されず、今回のような事故が繰り返されている現状については、安全管理に真摯に向き合っているのか疑念を持たざるを得ず、決して看過できるものではありません。

つきましては、部品遺失について嚴重に抗議するとともに、事故の原因究明及び具体的な再発防止策を図り、その内容を公表するよう、貴職から米側へ強く申し入れていただくようお願い申し上げます。

また、問題の抜本的解決のためにも普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と 5 年以内運用停止をはじめとする危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現するよう強く要請いたします。